

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572108041		
法人名	社会福祉法人 阿仁ふくし会		
事業所名	グループホーム 桂寿あに		
所在地	秋田県北秋田市阿仁水無字宮後4番地		
自己評価作成日	平成30年12月21日(金)	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成31年1月24日(木)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでも自分らしく、安心・安全に生活できるようにお手伝いします」との事業所理念を掲げている通り、その人らしく安心して生活できるよう支援している。また、家族連絡を密にし医療機関との連携も図りながら、より安心した入居生活が送られるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日、午前と午後ホールや廊下を活用した機能訓練に力を入れている。また、健康管理に気をつけており、体調変化に応じて医療機関を受診し、家族への情報提供とともに、家族とホームで判断するようにしている。ホームのある敷地内には、特別養護老人ホームが隣接しており、医療的なアドバイスをもらうことも可能であり、安心して生活できる環境となっている。管理者は職員の事を考えて設備投資を含めた環境整備も行っており、風通しの良い施設を目指して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は、朝の全体会議にて毎日唱和しているので、職員に浸透している。事業所単位の理念も掲げ、職員で共有しながら実践につなげている。	法人全体の理念を基本とした、ホーム独自の理念があり、いつまでも、自分らしく、安心・安全に生活できるように支援している。	管理者の取り組みによって、職員間の風通しが良くなっているため、地域密着型サービスの意義や役割(買い物、調理等暮らしの継続)を考えながら、理念を職員全員で検討することに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	年2回のGH地域交流会と、法人の夕涼み会を開催し、開設から交流を続けている。GH地域交流会に関しては、開催日程を調整し、いくらでも地域の子どもが遊びに来てくれるよう取り組んでいる。また、月1度のボランティア訪問の受入を継続、交流の輪を広げようと、職員も努力している。	7月と11月に毎年地域交流会を開催している。今までは近所の高齢者等の参加だったが、今年は趣向を変え、子供たちを招待し、喜ばれた。管理者は、行事の開催を目的とは捉えず、次世代への教育や期待も込め、これからも継続していきたいと考えている。又、毎月ボランティアの訪問があり、地域の方々との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	法人主催の健康講演会を年1回開催している。事業所単位では、実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間で6回の運営推進会議を開催、各委員の専門的立場から意見を交換しながらサービス向上につなげており、法人ならびに事業所として役立っている。	同法人のデイサービス(地域密着型)と合同で開催している。ヒヤリハットの報告が行われ、それについての活発な意見が出る等、サービス向上につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法改定や加算要件等の変更時には、その都度、市担当者に連絡し、確認を取り合っている。また、市介護保険担当以外にも、地域包括支援センターや生活保護担当者へ相談等の連絡をとりあっている。	前回の外部評価では生活保護担当者との関係強化を期待されたが、今回は細かい事(眼鏡が壊れたが、保証なるか。郵貯の引き落としが出来なくなる為、口座変更の依頼等)を含めて相談し、対応してもらえる関係となっていることが確認できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当法人の身体拘束廃止に関する指針の通り、適切なケアに取り組んでいる。また、指針に示す通り、身体拘束適正化委員会の設置と、当事業所から委員を選任、月1回の委員会開催ならびに定期的に施設内研修を行っている。	利用者の思いに寄り添うことを基本に、身体拘束についての勉強会を強化し、今まで何気なく行っていた介助等を丁寧に見直した。自分達がやられて嫌な事はやらないよう、徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束がもたらす弊害として高齢者虐待があると捉え、必然的に身体拘束廃止と同時進行で虐待防止に努めている。施設内研修や外部研修の派遣及び研修復命書にて職員間で情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症高齢者の権利擁護には、成年後見制度の必要性は十分に理解しているが、現在のところ、当ホームでその制度を活用されている入居者はいない。今後、制度活用が必要ではないかと思われる入居者がいるので、家族連絡したり、地域包括支援センターへ相談等の連絡をとっているが、まだ進展がない状況。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や、法改定による変更点の説明をし、その都度、同意書に署名をいただいて保管している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やその家族の意見は、その都度あるいは、職員会議の場で話し合い、要望として反映されるように努めており、必要な場合は、運営推進会議でも報告している。	些細な事でも家族に連絡し、意向を確認している。苦手意識を持たず、お互い不信感が無いように、常に意見を聞き、提案を出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議からの提案や日頃の意見等を管理者会議もしくは、その都度代表者に報告し反映されるよう努めている。実際、代表者が事業所を訪れる機会は少ないものの、朝の全体会で毎日話す機会があり、また管理者との報告連絡相談を密にしているので問題ないものと考えている。	管理者は、職員の負担を減らしたいと考えている。排泄の失敗があった場合、職員が低いトイレで洗っていることがあり、ウォッシュレットを付けて欲しいと提案したところ、管理者が設備投資し設置している。施設長も同様に、今いる職員を大切にしないといけないと強く考えていることが確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	慢性的な人員不足があり、また、厳しい経営状況の中でも、職員のことを思って職場環境の改善や条件の改善に取り組み、対応をしてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内部研修を開催したり、その職員にあった外部研修に派遣し、資質向上の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会で他事業所との意見交換等を行っている。また、居宅介護支援事業所との接点も重要視し、サービス向上に努めている。なお、現在の時点では他法人等の同業者との接点はないが、アクションをとっているところである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の不安に思っていることや要望等に耳を傾け、安心して入居生活を送られるよう、また信頼を築けるよう心掛けています。入居後も定期的に見直しをし、状況に応じた介護に努められるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、ご家族の希望や要望にも、できるだけ対応するように心がけている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる範囲のことは、お手伝いしていただいたり、時には(年寄りの)知恵をお借りすることもある。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どうしても、ご家族のお力が必要な場合もあるので、説明をしているので、その際は、快くご協力いただいている。また、些細なことでも家族連絡をし、風通しの良い事業所に心がけている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症の進行で、関係の継続は難しいところもあるが、ふるさと訪問(ドライブ)や面会人への配慮等で、思いが途切れないよう支援している。	ふるさと訪問では、「家に行きたい」という本人の思いを汲み取り、本人の自宅や、家族の家等へ出かけたり、一人ひとりのなじみの場所との継続を支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性に関して把握しており、孤立しないよう見守っている。また、思いの行き違いからの言い争いに発展しないよう(ケンカ)配慮、見守りしている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人の経営理念に「ご家族との縁を大切に」とも掲げており、自分自身はご家族との縁を大切にしている。開設して25年、開設当時の利用者家族が、現在の利用対象となり、円滑な支援や情報交換ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を確認しながら、入居生活介護に努めている。本人から意向の確認が困難な場合は、ご家族から生活歴を聴いたり、ご家族の意向を確認したりしている。また、職員会議でも、見直しや再検討の機会を設け、意向に沿えるよう努めている。	モニタリングの時に本人の意向を確認し、その後家族に報告し、確認している。必要に応じて再度聞き取りを行い、本人の意向を大事に支援している	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居生活の長い入居者の生活歴に関しては、十分把握しているとは言い難いが、最近入居した方や、他サービス利用時に携わった方などもあるので、その方に関しては、十分把握している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今できていることを続けられるよう支援していくことが、大切だと思っている。心身状態の変化には気付けるよう、努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の望む生活やご家族の意向、担当介護員からの意見を参考に、生活全体を捉えてアセスメントするよう心掛けている。	利用者ごとの担当制としており、毎月の会議で、担当者の意見を聞き、職員全員で話し合い、介護計画書に反映させている。日々の体調に合わせてサービス内容を変更できるように配慮し、作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録や月に1回行われている会議の場で支援経過の報告を受け、必要時には介護計画書の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	僻地なため、フォーマルサービスならびに、インフォーマルサポートの制約はあるものの、それぞれの特性を活かした生活の支援ができています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療との緊密な連携を図っていくことが重要であると考えているので、近隣に所在するかかりつけ医にすぐ相談できる態勢をとっている。また、かかりつけ医が遠くの場合でも、そのかかりつけ医に病状等の相談しながら、(受診時間の負担軽減なども含め)近隣に紹介してもらえるよう、調整もしている。	往診を利用している利用者はなく、基本としてかかりつけ医を受診している。近所の診療所へ職員が付き添い、通院している。インフルエンザの予防接種や、状態の悪い時等は、同敷地内にある特別養護老人ホームに来る医師に診てもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	基本、体調に変化があった場合は、すぐに受診している。診療までに時間のある場合や休診の際は、隣接する施設看護職員へ相談し、助言や適切な対応法等を仰いでいる。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	自身、入退院対応の経験もないので、なんとも言えないし、かかりつけ医(阿仁診療所)に入院病床がないので、これも何とも言えない。ただ、阿仁診療所との関係作りは良好。また、先日、阿仁受診時、緊急で市民病院へ紹介され受診したが、医療機関同士の連携がとても良かったので、大丈夫かと思う。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居した時点で、重度化した場合や終末期についてご家族へ説明している。また、介護計画書の見直し等の機会にも説明、遠くにお住まいのご家族も多いことから、万が一の際の具体的なお話しと、近隣の協力者の確認もしている。	入居時に、看取りの説明を行っている。家族が救急搬送を希望しており、状態が悪くなる度に対応しているが、今後体調を崩してしまう期間が短くなった際の、ホームの対応方法について、丁寧に説明し話合う機会をつくっている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者別にかかりつけ医の連絡先や家族連絡先等を整備、マニュアル等で緊急時に備えている。また、忘れたころ？に、AED(心肺蘇生含む)の講習会を開催している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	有事に備え、月に1回避難訓練を実施している。その際は、地域のボランティア訪問時に合わせているので、ご協力いただいている。また、特養合同で夜間想定駆けつけ及び避難誘導訓練を実施している。最近では市主催の防災訓練等があり、地域住民と一緒に実施している。今後は、大規模訓練の予定はないが、従来通り、施設避難訓練に地域住民が参加してもらう予定となっている。	以前から月に1回の避難訓練を行っており、今後も継続していく考えである。地域住民や毎月来てくれるボランティアの方々は協力的で、一緒に訓練を行っている。夜間想定その他、土砂災害等も想定し訓練を実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に誰かに聞かれている、見られていることを認識しながら、適切な言葉遣いや対応に徹している。	利用者の思いに配慮した介助を心がけ、本人の気持ちに寄り添ったトイレへの誘導、プライバシーに配慮した情報の共用、声のトーンに気を付けている。管理者の考えとして、当たり前の事を行うことを徹底している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その思いを引き出すことができるような支援に心がけているが、すべてにおいて、そうであると言い切れないこともあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課計画はあるが、その入居者にあつたケアで柔軟に対応している反面、業務に追われて介護員本位になることもあつた。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性が保てるように支援している。外出の際は、本人に洋服を選んでもらっている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみを持って食事できるよう、季節に応じたメニューや、行事食に心がけている。また、負担にならない程度に、お手伝い(主に片づけ)いただいている。	基本的に、冷蔵庫の中を確認し、献立を決定している。買い物は職員が行い、食の安全を考え、国産の物を購入している。利用者に役割を持ってもらい、準備や片づけを手伝ってもらっている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量ならびに、体重の記録を管理し、把握している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア(うがいには、効果の高い？お茶を使用)を適切に行っており、週2回の義歯消毒も徹底している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者ひとりひとりのパターンを把握しながら、必要な支援を行っている。	チェック表を利用し、一人ひとりのパターンを把握している。自分で歩ける人には自分で行ってもらい、介助が必要な人にも、過剰な手助けにならないように配慮している。便秘の人もあり、薬だけに頼らないよう、水分や運動量に気を配り、ホームでできる事をやっても改善しない場合は、医師に相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録のもと、宿便しないよう管理している。水分補給を多くしたり、食事の工夫等でなるべく薬剤に頼らないよう対応しているが、主治医に相談して投薬調整したりもしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックし、健康状態に合わせて週2回の入浴を実施しているが、時間帯や曜日まで固定的なのが現状。入浴剤を使用し、楽しんでいただいている。	脱衣場や浴室が寒くならないように気を配り、事故が無く、気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。基本的に毎日午後から、3名程度が入浴しており、週2回は入浴できるようにしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状況に応じて、適度に体を休めていただいているが、基本、夜間ゆっくり休めるように、必要以上の仮眠(午睡)はとっていない。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬による効能や、副作用、禁食等の情報を職員間に周知、ほか、誤薬防止に努めながら管理徹底している。また、投薬変更あった場合には、薬剤師から説明、助言を受けている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	理想の生活は抱いているが、日々進行する認知症により、その人の「居場所」を知ってもらい、納得いただくのに、いっぱい感がある。レクや外出である程度は気分転換が図られている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じたドライブや外出などを企画し、参加いただいている。また、個別での屋外散歩やドライブ(自宅を見に行くなど)等、可能な限りの対応をしている。また、主催する団体の協力も得ながら、地域行事(学校の体育祭、発表会など)への参加もしている。	以前は遠くまで外出を楽しんでいたが、地域の人たちにさりげなく「こういう人たちが居るのでよろしく」とさりげなく伝える為に、近くの駅のレストランで食事をしたりしており、地域で見守る事を大事に考えている。現在の利用者は屋内で過ごすことを好むこともあり、利用者に合わせて対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを所持している方もいるが、基本、金銭管理はホーム(管理者)で行っている。希望に応じて、いつでも使えるようにしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話はいつでも可能。また、定期的に家族連絡(近況報告等)しているので、その際は、入居者に電話をかわり、ご家族と会話してもらうよう努めている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい環境作りに努めている。装飾品や職員の事務室においても、入居者に危険が及ばないよう環境を整えている。	天井も高く、明るく、懐かしく落ち着いた雰囲気のホームで、居心地が良く、全員がホールで過ごしている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席においては、性格上のこともあり、気の合うと思われる同士で食卓を囲んでいる。普段のソファ席は自由席だが、自然と気の合うもの同士で座っていることが多い。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や、コップ等をお使いいただいている。以前は食器もご持参いただいていたようだが、安全面の配慮等で、こちらで用意している。居室に関しては、介護員の見守りの中でお過ごしいただく方がほとんどなので、なんとなく寂しさを感じる佇まいのお部屋もある。	居室の入り口には障子が取り付けられ、落ち着いた雰囲気である。写真を飾ったり、本人の大事な物を持ち込んだりと、本人に合わせた部屋となっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーで安全面に配慮しているが、いざ屋外を散歩してみると、意外に歩けないことが多いことに気づかされる。(ちょっとした段差や、勾配、道のうねりなど)今できていることを続けられるような支援も大切だが、少しの変化で出来ていたものが、出来なくなってしまうことも、介護員には認識してもらいたい。		